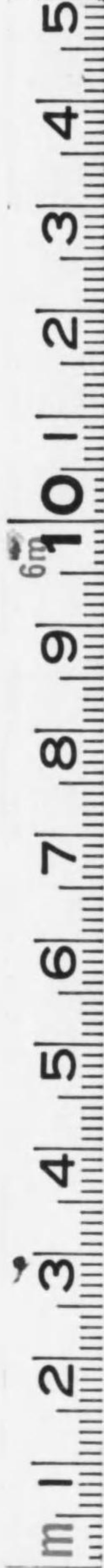


始



九州醫專教授 磯部幸一著

# 醫學生のラテン

610

東京・大學書林

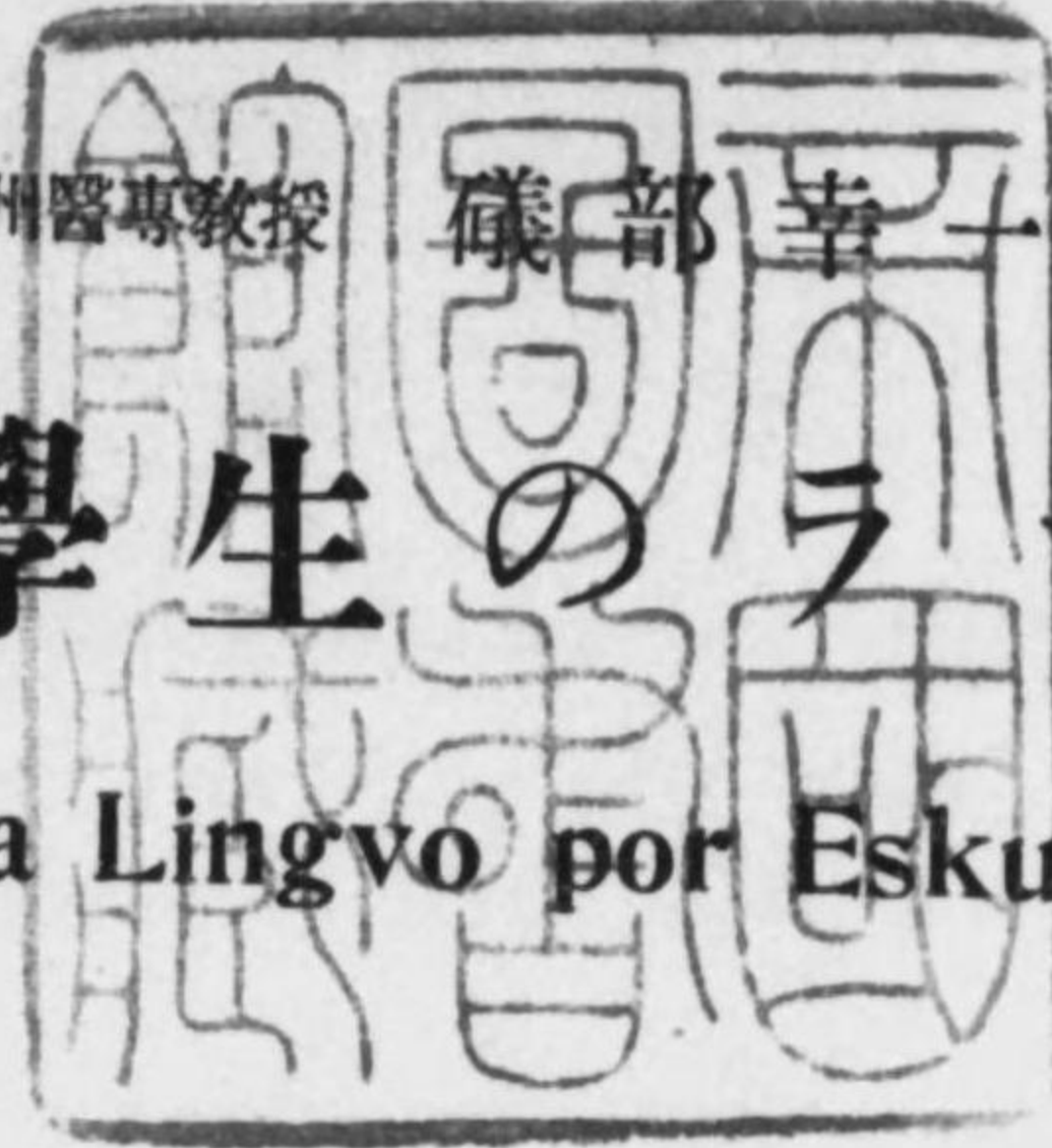


持252  
694

九州醫專教授 儀部幸一 著

醫學生のラテン

Latina Lingvo por Eskulapidoj



610

東京・



林



343-579

## 緒 言

醫學生はラテン語を通常教へられない。しかし彼等の読む醫書、聽く講義にはさらに出て來る。心ある學生はラテン語の獨習をやつてゐる。しかしこれでは確實性が疑はれる。現にあるクラスの學生は必要にせまられて遂ひ僕にラテン語の手ほどきを依頼に來た。そこで約二ヶ月ばかりかかつて醫學生として必要なラテン語の概要を講義した。これをきいた他のクラスの學生で残念がつたものがかなり澤山あると聞いた。

先達も某大學教授御來校の節伺つた話では、現今は高等學校でラテン語を教へないので、大學、中でも醫學部ではラテン語の理解が以前のやうに學生にないので講義を徹底させるに遺憾な點が多い、それで近頃ではラテン語の教師を雇つて學生に教へてゐる始末だと云つて、出来るなら極簡単にラテン語の曲げだけでも教へることの必要を提唱された。

そこで學校當局の諒解を得て今年度から一年と二年とに前學期間だけ一週一時間ラテン語を教へることになつた。でかつて講義に使つたものを修正して印刷に附することになつた。推稿も充分と行かないので意に満たぬ個所もあるがそれは他日に期する。

1932年3月

編 者 誌



## 目次

I. 醫語に就いて.....	1
II. ラテン語の文字と發音.....	1
1. 文字—2. 發音。—3. 母音—4. 半母音—5. 重母音—6. 子音	
III. アクセント.....	3
IV. ラテン語の品詞.....	4
V. 名詞.....	5
1. 名詞の變化—2. 名詞變化の種々相—A. 第一變化—B. 第二變化—C. 第三變化—D. 第四變化—E. 第五變化	
VI. 形容詞.....	18
1. 概説—2. 第一種形容詞—3. 第二種形容詞—4. 形容詞の比較	
VII. 數詞.....	28
數詞一覽表	
VIII. 前置詞.....	30
1. 四格支配の前置詞—2. 六格支配の前置詞—3. 四格と六格支配の前置詞	
IX. 接續詞及びその他.....	32
附録： ラテン語演習.....	33



## 醫學生のラテン

### I

#### 醫語に就いて

醫語とは醫學徒が平生使用する外國語であるが、吾が日本では主として獨逸語とラテン語とが擧げられる、それ故獨逸語の外にラテン語を研究する必要がある。しかしラテン語を全部マスターすることは容易の業ではないばかりか、醫學徒にとつて甚だ重い負擔であらねばならぬ。そこで醫學徒にとつて必要の最小限度に於けるラテン語の研究を目的とする。

### II.

#### ラテン語の文字と發音

1. 文字は w を除く 25 文字、その内 k は稀用、y, z はギリシヤ語から轉用せる語にのみ用ひられる。

A a B b C c D d E e F f G g  
H h I i J j (K k) L l M m N n  
O o P p Q q R r S s T t U u  
V v X x (Y y) (Z z)

2. 發音、日本のローマ字が即ちラテン語音の生みの母である。だから大體ローマ字式にやればよいと云ふことになる。



ラテン語は所謂死語であるだけに各國の人々はそのお國流に發音したがる傾向があるため、ラテン語の發音にラテン語式、英語式、獨逸語式と云ふのがある。で研究者の考でラテン語式で押通す人もあるが、醫學徒は傍ら獨逸語研究をやつてゐる關係上、ラテン語式に獨逸語式を加味してやつてゐるものが多い。

3. 母音 a e i o u y

これには勿論長短の別がある。また y は獨語の ü の音である。

例: māter (母) pāter (父) hyperaemia (充血)

4. 半母音

母音の前の i=獨語の j 例 materia

q, ng, s の直後の u+母音=英語の w+母音

例: aqua lingua suavis

5. 重母音

ae oe au oi eu (ue) ui

【例外】 aë oë (分音符 diairesis)

ラテン語式 ae アイ eu(ue) エウ oe オイ au アウ

獨語式 ae エ eu エウ oe エ au アウ

例: anaemia アナイミア (羅) アネーミア (獨)

アニーミア (英)

pleura プレウラ (羅) プロイラ (獨)

プリューラ (英)

amoeba アモイバ (羅) アメーバ (獨)

アミーバ (英)

6. 子音

ラテン語式 大體日本式ローマ字の發音と思へばよい。

c = k x = ks s = 清音のs t = t (獨語のzとならぬ)

ch = k ph = p (又は f) th = t rh = r z = s の濁音

g = k の濁音、(英語のjの音なし) j (ヤイユエヨの音)

獨語式

b (p の音なし) c = k (c が a, o, u 及び子音の直前にあるとき) c = z (c が e, i, y, ae, ou, eu の前にあるとき)

s (綴字の頭と尾にあるとき清音。綴字の中間にあるとき濁音)

ti (母音の前=獨語のzの音。ti の i。長音のとき及びs, t, x, が ti の直後にあるときは ti そのままの音)

th = t ph = f v = 英語のv z = 獨語のz

例: caesar カイサール (羅) ツエーザー (獨)

シーザー (英)

brachium ブラキウム (羅) ブラヒウム (獨)

ブレーキウム (英)

III.

アクセント

1. 二音節以上の語に於けるアクセントは最後から二番目の音節にある。



例: natu'ra      medi'cus      pleuri'tis

2. 二番目の音節が短母音の時はもう一つ前の音節にある。

例: ci'cero      pneum'onia      i'ntegrum

【練習】

abdomen (腹)	bronchus (気管)	dolor (疼痛)
crystallum (結晶)	excipiens (佐薬)	nervus (神経)
natio (自然)	glandula (腺)	hydrops (水腫)
lingua (舌)	medicus (医者)	testis (睾丸)
oxygenium (酸素)	protoplasma (原形質)	larynx (喉頭)
pharynx (咽頭)	sperma (精液)	organon (器官)
aneurysma(動脈瘤)	bacterium (細菌)	uterus (子宮)
penis (陰莖)	processus (突起)	caput (頭)

IV.

ラテン語の品詞

1. ラテン語には冠詞がないから全部で九品詞である。
2. 医学生研究の範囲
  - A. 学名殊に醫學上の学名の理解とその文法變化を知ることが主要點である。この意味に於てあまり必要でない代名詞、動詞、副詞、間投詞は省く。
  - B. 接續詞及び前置詞の内若干を知つて置くことは徒爾ではないが、これに主力をそそぐことは止める。

C. 残る三品詞即ち名詞、形容詞、數詞が吾等の研究の對象である、とは云へこの三品詞に関する總ての智識が必要ではない。形容詞と數詞とは只その變化だけ、名詞には六格あるが學名として必要のものは通常二つだけである、即ち單數複數の各一格及び二格、都合四つの形を研究すればよい。

V.

名詞

1. 名詞の變化

- A. 名詞の性 男、女、中の三性があること獨逸語と同じ。  
 名詞の數 單數と複數の二つ。  
 名詞の格 格に六つある、獨語より二つ多い。即ち  
   一格 (Causus nominativus)  
   二格 (Causus genitivus)  
   三格 (Causus dativus)  
   四格 (Causus accusativus)  
   五格 (Causus vokativus)  
   六格 (Causus ablativus)
- B. 學名中に出て來る最も必要のものは一格と二格の單複に於ける變化形である。

2. 名詞變化の種々相 名詞の變化に五種類ある。

A. 第一變化

特徴: 單數二格で語尾 **ae** をとる。



	Singularis	Pluralis
Nominativus	vena (静脈)	venae
Genitivus	venae	venarum

【解説】

- 語尾 a の名詞の大部分はこの変化に属す。
- この変化に属する名詞の大部分は女性。poëta (詩人)の如く自然性を有するものは例外。
- ae, arum の語尾はこの変化に特有のもの。この特性語尾を有つ名詞を見て、その単数一格 (s. n.) の形を知るは容易。  
例: vena portae (門脈) の portae から、その単数一格が porta なることが容易に知れる。
- 凡て名詞の単数二格からその語尾を除去したものを語幹と云ふ。

第一変化語尾表

	S.	P.
N.	— a	— ae
G.	— ae	— arum

【類語集】

aorta (大動脈) arteria (動脈) atrophia (萎縮)  
cardia (噴門) capsula (皮囊) cauda (尾)

costa (肋骨) conjunctiva(結膜) fascia (筋膜)  
fossa (窩) glandula (腺) gutta (滴)  
hypertrophia (肥大) insula (島) linea (線)  
mamma (乳房) maxilla (上顎骨) medicina (醫學)  
membrana (膜) neuralgia(神経痛) orbita (眼窩)  
pharmacologia (薬物學) papilla (乳頭)  
pleura (肋膜) physiologia (生理學)  
prostata (攝護腺) pupilla (瞳孔) palma (掌)  
planta (蹠) retina (網膜) spina (棘)  
scientia (科學) substantia(物質) trachea (氣管)  
tuba (喇叭管) vagina (腔) valvula (瓣)  
vena (静脈)

第一変化に属する名詞の使用例

vena\* cava (大静脈) carcinoma mammae\* (乳癌)  
korpus verterae\* (椎體) rima\* palpebrarum\* (眼裂)  
valvulae\* venarum\* (静脈瓣)

B. 第二変化

特徴: 単数二格で語尾 i をとる。

	S.	P.
N.	bacillus (桿菌)	bacilli
G.	bacilli	bacillorum



【解説】

- 語尾 us (ir, er) 又は um の名詞がこの變化に屬す。その内 us と um とが代表である。
- us (ir, er) 屬は男性。um 屬は中性。us 屬は女性も中性もある、但し極少數。
- この變化に屬する中性名詞即ち um 屬の名詞は複數一格で語尾が i の代りに ã となる。  
例: cerebrum (大脳)の複數一格は cerebri でなく cerebra.

第二變化語尾表

	S.	P.
N.	— {us (ir, er) um	— {i ã
G.	— i	— orum

【類語集】

A. us 屬

anus (肛門) coccus (球菌) uterus (子宮)  
 nervus(神經) oesophagus(食道) puer (少年)  
 vir (人) nucleus (核) ventriculus(胃,心室)

B. um 屬

ovarium (卵巢) cerebrum (大脳) cerebellum (小脳)

intestinum (腸) brachium (上膊) cavum (腔)  
 dorsum (背) ileum (腸骨) acidum (酸)  
 sensorium(意識) periostium(骨膜) sputum (痰)

第二變化屬名詞の使用例

cavum\* uteri\* (子宮腔) musculi\* colli (頸筋)  
 sulci\* nervorum\* (神經溝)

C. 第三變化

特徴 單數二格で語尾 is をとる。

	S.	P.
N.	homo	homines
G.	hominis	hominum

【解説】

- この變化屬の名詞の語尾は不定且つ種々雜多である。
- 第一第二變化では單數一格から語尾を除いたものが常に語幹に等しい。この第三變化では多くの場合そんなわけに行かない。
- この變化でも第二變化と同様に中性名詞の複數一格は ã の語尾をとる。  
(例) Os (骨) の P. N. は osses でなく ossa である。
- os, ossis の如く語幹が二個の子音に終る名詞又は unguis, unguis (爪)の如く is (es) に終る名詞が S. G. で綴りを増さないものは P. G. で ùm の代りに iùm をとる。



【例】 os は **ossium** unguis は **unguium**

- e, al, ar に終る中性名詞は P. N. で *ēs* の代りに *iā*, P. G. で *um* の代りに *iūm* をとる。

【例】 *rētē* (網) は **retia**, **retium**, animal (動物) は **animalia**, **animalium**, thenar (拇指球) は **thenaria**, **thenarium**

第三變化語尾表

	S.	P.
N.	(不定)	— <i>ēs</i> ( <i>ā</i> , <i>iā</i> )
G.	— <i>īs</i>	— <i>ūm</i> ( <i>iūm</i> )

第三變化に屬する名詞の語幹鑑別法

- *āl* . . . . . *ālīs* 例:— animal . . . animalis (動物)
- *as* . . . . . *ātis* extremitas extermitatis (肢)
- *a* (ギリシヤ系) *ātis* carcinoma cartinomatis (癌)
- *en* . . . . . *inīs* abdomen . . abdominis (腹)
- *er* . . . . . *ēris* vomer . . . . . vomeris (鋤骨)

【注意】 er は變化の際多く e を失ふ。

例:— ureter . . . . . uretris (輸尿管)

- *is* . . . . . *īs* unguis . . . . . unguis (爪)
- *ör* . . . . . *ōris* abductor . . abductoris (外轉筋)
- 子音+s . . . . . *tis* dens . . . . . dentis (齒)

第三變化に屬する名詞の性に關する原則

- or に終るものは原則として **男性**  
例外:— cor (心臟) 中性; arbor (木) 女性

- er に終るものは原則として **男性**  
例外:— cadaver (屍體) 中性
- os に終るものは原則として **男性**  
例外:— *ōs* (口腔) *ōs* (骨) 中性
- es に終り S. G. で綴を増すものは凡て**男性**  
例:— pes, pedis (足)
- ex に終るものは凡て **男性**
- l に終るものは原則として **中性**  
例外:— *sōl* (太陽) *sāl* (食鹽) 男性
- a, c, e, i, n, t, ar, ur, us に終るもの 凡て**中性**
- is に終るものは原則として **女性**  
例外:— *icis*, *guis*, *nis* に終る凡ての名詞及びその他二三のものは男性
- 子音+s に終るものは原則として **女性**  
例外:— dens (齒) pons (橋) mons (山) 男性
- 上記以外の名詞は凡て **女性**

語幹によりその名詞の S. N. を知る法

- b, p に終る語幹ではそれに **s** を加へる。但し語幹の最後の綴に **i** ある時は S. N. はその **i** が **e** に變つた形である。  
例:— G. *adipis* の S. N. (單數一格) . . *adeps* (豚脂)
- g, c に終る語幹ではそれに **s** を加へたため、兩者融合して **x** となる故 S. N. の語尾は **x**。又語幹最後の綴の **i** が **e** に代ることも同前。



例:-G. corticis . . . . . N. cortex (革皮)

○ d, t に終る語幹ではこれを除去して s を加へる。

例:-G. aciditatis      N. aciditas (酸度)  
      G. iridis            N. iris        (虹彩)

○ l, r に終る語幹ではこれをそのまま残した形が S. N. 但し r の直前に他の子音ある時はその間に母音(e など) が挟まる。中性名詞では r が s に代り同時に e が u などに變はる。

例:-G. liquoris        N. liquor     (液)  
      G. patris          N. pater     (父) 男性  
      G. operis         N. opus      (仕事)中性

○ n に終る語幹ではこれをそのままか又はこれを取り去つた形が S. N. 但し語幹最後の綴に i あれば o 又は e に代はる。

例:-G. solutionis      N. solutio    (溶液)  
      G. aluminis        N. alumen    (明礬)  
      G. hirudinis       N. hirudo    (水蛭)

【第三變化類語集】

Es 屬 (P. N.) (男性と女性) (P. G. um 又は ium)

A. P.G. { menstruatio (-tionis) 月經 compensatio 代償  
  um    { homo (-minis) 人類 margo 縁(≠) cartilago 軟骨  
         { pes (pedis) 足 lex (legis) 法則 pons (pontis) 橋

B. P.G. { finis (—)終り tuberculosi (—)結核  
  ium    { pars (partis) 部分 ars (artis) 術

A (ia) 屬 (P. N.) (中性) (P. G. um 又は ium)

A. a 屬 { carcinoma (-atis) 癌 exanthema (-atis) 發疹  
  P.G.    { symptoma (-atis) 徴候 stigma (-atis) 症状  
  um     { stoma (-atis) 口 stroma (-atis) 基質  
         { pus (-ris) 膿汁 corpus (-oris) 體 pectus (-oris) 胸  
         { os (oris) 口 os (ossis) 骨 genus (-eris) 性、種族  
         { femur (-oris) 大腿骨 caput (capitis) 頭

B. ia 屬 { animal (-is) 動物 hepar (-atis) 肝臟  
  P.G.    { mare (maris) 海  
  ium

第三變化屬名詞の使用例

musculus abdominis\*      腹筋  
systema\* nervorum centrale 中樞神経系統  
venae organum\* genitalium 生殖静脈  
ossa\* extremitatis\*        肢骨

D. 第四變化

特徴 單數二格で語尾 us をとる。

	S.	P.
N.	processūs	processūs
G.	processūs	processuūm

【解説】

○ この變化屬の名詞語尾は us と u.



—us は manus 手(女性)を除く外は凡て男性。

—u は凡て中性。

- u に終る名詞は P. N. で ūs の代りに ūā となる。  
例:—genu (膝) の P. N. は genūs でなく genūā.
- S. G. と P. N. に於てその形が S. N. と同じである名詞は必らずこの變化屬だ、但し發音に長短の別がある。
- ラテン語の中性名詞はどの種の變化でもその P. N. の語尾は必らず a に終る。

第四變化語尾表

	S.	P.
N.	— ūs (u)	— ūs (ūā)
G.	— ūs	— ūūm

【第四變化類語集】

- A. sensus 感覺 visus 視覚 auditus 聽覺  
 olfactus 嗅覺 habitus 體質 status 状態  
 excessus 過度 exitus 出口、轉歸 apparatus 装置

- B. genu 膝 cornu 角

第四變化に屬する名詞の使用例

- campus visūs\* 視野 status\* praesens (形) 現症  
 habitus\* scrofulosus (形) 腺病質性體質  
 exitus\* letalis (形) 死の轉歸  
 aneurysma arcus\* aortae 大動脈弓動脈瘤  
 vola manus\* 手掌

E. 第五變化

特徴 單數二格 (S. G.) で語尾 ei をとる。

	S.	P.
N.	diēs	diēs
G.	diei	diērum

【解説】

- この變化屬の名詞は S. N. で es に終り、dies (日) 男性の外は女性
- S. G. の語尾 ei はその前に尙ほ母音あれば ei と長音になる。  
例:—res, rei 物 dies, diei 日

第五變化屬の類語集

- facies 顔面 scabies 疥癬  
 species 種 caries カリエス

第五變化に屬する名詞使用例

- facies\* anterior sterni 胸骨の前面  
 pallor eximius faciei\* 極度の顔面蒼白

【参考】

1. ギリシヤ語系の — sis は女性。これが獨逸語では — se となる。

例:—stasis . . . . . die Stase 鬱滯、鬱血



pareisis .....die Parese 不全麻痺  
 paralysis .....die Paralyse 麻痺  
 paracentesis ....die Paracentese 穿刺  
 narkosis .....die Narkose 麻醉

2. —tio 及び —sio は獨語に轉用する時は女性で  
 —tion, —sion となる。

例:—operatio.....die Operation 手術  
 defensio .....die Defension 防禦

3. —tas は獨逸語に轉用すれば女性で —tät となる。

例:—integritas .....die Integrität 完全、健全

4. 炎衝の名は皆 —itis と云ひ女性。—itis の複数は獨  
 語で —itiden である。

例:—pleuritis (女) 肋膜炎 Pleuritiden (複)

縮小名詞

1. ある名詞に cul, ul, ol 等を加へ且つその名詞の性に一致  
 する語尾 (男性 us, 女性 a, 中性 um) をつけて縮小名詞  
 をつくる。

例:—arteria *f.* 動脈 arteri-ol-a 小動脈  
 artus *m.* 節 arti-cul-us 小節(冠詞)  
 canalis *m.* 溝 canali-cul-us 小溝  
 zona *f.* 帶 zon-ul-a 小帶  
 corpus *n.* 體 corpus-cul-um 小體

2. cul を獨語に轉用する時は —kel となる。

例:—der Artikel 冠詞 die Partikel 小片  
 der Muskel 筋 die Tuberkel 結核

名詞語尾變化一覽表

種類 數格	第一變化		第二變化		第三變化		第四變化		第五變化	
	S.	P.	S.	P.	S.	P.	S.	P.	S.	P.
N.	a.....ae		{ us .....i um .....a		{ (不定) ..es (不定) a (ia)		{ us .....us u .....ua		es.....es	
G.	ae ... arum		i .....orum		is { .....um .....ium		us .....uum		ei ..erum	



VI.

形容詞

1. 概説 A. 形容詞はその関係名詞の性数格に従つて變化する。  
 B. 形容詞の變化はその關係する名詞の性によつて先づ決定する。名詞そのものの變化種類を問はない。(例) pater (男性)(第三變化) bonus (男性)(名詞の第二變化に従ふ)  
 C. 形容詞に二種類ある。

種	性	男性 (m.)	女性 (f.)	中性 (n.)
第一種 形容詞	— us	— a	— um	
	— er			
第二種 形容詞	第一種形容詞の形式に従はないもの			

2. 第一種形容詞

- この種属の形容詞はその男性形に **us** と **er** の二種がある。
- この種の形容詞の女性形は名詞第一變化、男性形は名詞第二變化、中性形は名詞第二變化の中性名詞と同様に變化する。

例: sanus (健康の)(男性) —a (女性) —um (中性)

數	格	性	女	男	中
S.	N.		sana	sanus	sanum
	G.		sanae	sani	sani
P.	N.		sanae	sani	sana
	G.		sanarum	sanorum	sanorum

- er に終る形容詞は語尾を附加する際その **e** を失ふ。dexter (右の)の變化表を示す。

數	格	女	男	中
S.	N.	dextra	dexter	dextrum
	G.	dextrae	dextri	dextri
P.	N.	dextrae	dextri	dextra
	G.	dextrarum	dextrorum	dextrorum

- us に終る形容詞は凡てこの第一種属である。
- er に終る形容詞で第一種に屬するものは割合少ない、他は大部分第二種に屬する。

第一種形容詞語尾一覽表

數	格	性	女	男	中
S.	N.		— a	{ — us — er	— um
	G.		— ae	— i	— i
P.	N.		— ae	— i	— a
	G.		— arum	— orum	— orum

【類語集】

A. us 属

bonus (—ā, —ūm) 善き      malus 悪き  
 magnus 大きい      parvus 小さい  
 longus 長い      medianus 正中の  
 acutus 急性の      chronicus 慢性の  
 perniciosus 有害の      serosus 漿液性の



fibrinosus センイ素性の      suppurativus 化膿性の  
 septicus 腐敗性の              haemorrhagicus 出血性の

B. er 属

miser (—ã, —üm) 不幸の      pulcher 美しい  
 tener 軟弱の                      liber 自由の  
 lacer 裂けたる                    niger 黒い  
 ruber 赤い                          integer 無疵の  
 sinister 左の

【第一種形容詞應用例】

A. us 属

linea alba 白線                    arteria iliaca 腸骨動脈  
 nervus medianus 正中神経      nephritis acuta 急性腎臓炎  
 sectio caesarea 帝王切開      otitis media 中耳炎  
 aqua destillata 蒸溜水          tinctura amara 苦味チンキ  
 acidum salicylicum サルチール酸

B. er 属

os sacrum 薦骨(神聖の骨)      morbus sacer 癩痢  
 foramen lacerum 破裂孔      auricula sinistra 左心耳  
 ventriculus dexter 右室      lobus sinister 左葉  
 [形容詞の位置] 形容詞は通常名詞の後に置くを法則とすれど又名詞の前に置くこともある。

3. 第二種形容詞

- この種の形容詞に三種ある。

1. 三種の語尾を有する者即ち男性女性中性共に各その變化を異にする者。
  2. 二種の語尾を有する者即ち一種は男性と女性とに共通し他の一種は中性に用ふる者。
  3. 男女中三性に通じて唯一種の語尾を有する者(但し中性複は數の一格 P. N. に於て男女性と異なる)。
- 例:— 1. ācer (男) acris (女) acre (中) 鋭い  
 2. brevis (男女共通) breve (中) 短い  
 3. fēlix (男女中三性共通) 幸な

- この種の形容詞は名詞第三變化に屬する animal (中性)の變化に従ふ。但し男性と女性とは唯 P. N. で ia の代りに es をとる。S. N. ではその語尾は不定だが男性では女性と共通のものには is 多く、中性には e が多い。

	S.	P.
N.	(animal)	— ia (es)
G.	— is	— ium

○ 語尾變化表

		單 數			
		1) 男、女、中	2) 男及び女 中	3) 三性共通	
N.	acer	acris	acre	brevis brevis	felix
G.	acris	acris	acris	brevis brevis	felicis

		複 數			
		1) 男、女、中	2) 男及び女 中	3) 男及び女 中	
N.	acres	acres	acria	breves brevia	felices (男女) felicia (中)
G.	acrium	acrium	acrium	brevium brevium	felicium felicium



- 単数一格 (S. N.) の男性形は is に終るとは限らない。acer (尖い) superior (上の) descendens (上行する所の) この他二三の形もある。
- or に終る形容詞の中 minor (kleiner より少い) と or の前に i のあるもの、換言すれば比較級の形容詞は P. G. で ium の代わりに um をとる。但し中性形はこの他 P. N. で ia の代わりに a をとる。又中性形は S. N. では通常 or の代わりに ūs となる。[形容詞の比較参照]

S.		P.	
男及女性形	中性形	男及女性形	中性
N. posterior	posterius	posteriores	posteriora
G. posterioris	posterioris	posteriorum	posteriorum

形容詞の語幹を知る方法

- 形容詞の語幹とは名詞の場合と同じく S. G. から語尾を取り去つたもの。辞書には通常男性形が載つてをる。
  - A. 男性形が — is に終るものは S. G. は同形。  
例:— lateralis (N.) lateralis (G.) 外側の。
  - B. 男性形 — er .... は多く e を失ひ語尾 is をとる。  
例:— acer, acris 鋭い。
  - C. 男性形 — ör .... は語尾 is をとり o は長音となる。  
例:— superiör, superiöris 上の
  - D. 男性形 — ens .... は ens が ent となり之に語尾を加へる。例:— descendens, descendentis (上行)

男性形から女性、中性形の S. N. を求むる法

- A. — is に終るものは女性と同形、中性は ě と代はる。  
例:— lateralis (男女) laterale (中)
- B. — ör は女性と同形、中性は ūs と代はる。  
例:— posteriör (男女) posteriūs (中)
- C. — er は女性に語幹に is、中性は ě の語尾をとる。  
例:— ācēr (男) ācris (女) ācrĕ (中)
- D. — ěns は男女中三性を通じて同形。  
例:— ascendens (男女中)

第二種形容詞語尾一覧表

		中性形	男女性形
S.	N.	(不定) (ě, ūs 等)	(不定) 男 (er, ia, or 等) 女 (is, in, or 等)
	G.	— is	— is
P.	N.	— iā (ā)	— es
	G.	— ium (ūm)	— iūm (ūm)

【類語集】

1. 三種の語尾を有するもの (男女中性共、各その變化を異にするもの)
  - acer (acris, acre) 鋭き      celeber 有名な
  - celer 速かな      saluber 治効ある
2. 二種の語尾を有するもの (一種は男女性に共通、一種は中性に用ふるもの)



brevis (— vis (男女), — e (中性)) similis 似たる  
 facilis 容易な levis 軽い  
 gravis 重い catarrhālis カタル性の  
 letalis 死の pulmonalis 肺の  
 centralis 中心の

3. 男女中三性に通じて唯一種の語尾を有するもの。

felix 幸福の simplex 単一の  
 duplex 二重の pauper 貧しい  
 vetus 古い praesens 現在の  
 adulescens 若年の frequens 数多き  
 adhaerens 癒着せる

【第二種形容詞應用例】

fascia superficialis *f.* 浅在の筋膜  
 exitus letalis *m.* 死の轉歸  
 processus ensiformis *m.* 劍狀突起  
 icterus catarrhalis *m.* カタル性黄疸  
 caput breve *n.* 短頭  
 os maxillare *n.* 顎骨  
 nervus facialis *m.* 顔面神經  
 glandula lacrymalis *f.* 涙腺  
 os frontale *n.* 前頭骨  
 arteria ulnaris *m.* 尺骨神經  
 ramus perforans *m.* 穿孔枝  
 struma pulsans *f.* 搏動性甲状腺腫

vas deferens *n.* 輸精管  
 status praesens *m.* 現症

4. 形容詞の比較

A. 比較級 = 原級の語幹 + —ior (中性では —ius)

○ 原級男性の第二格の —i (第一種形容詞) 又は —is (第二種形容詞) を —ior (—ius) に換へる。

例:— altus (—i) 高い.....altior, altius より高い

brevis (—is) 短い.....brevior, brevius より短い

○ 比較級は大略第二種形容詞と同様に變化する、但し P. G. は ium でなく um である。中性形は P. N. で a をとる。

	S. (單)		P. (複)	
	男及女性	中性	男及女性	中性
N.	brevior	brevius	breviores	breviora
G.	brevioris	brevioris	breviorum	breviorum

比較級の語尾變化一覽表

	S.		P.	
	男女性	中性	男女性	中性
N.	(—ior)	(—ius)	—es	—a
G.	(語幹)is	—is	—um	—um

B. 形容詞の最上級 = 原級語幹 + —issimus (男性) (女性では —issima, 中性では —issimum)



例:— longus (—i) 長い...longissimus (男)  
longissima (女) longissimum (中)

○ 最上級は第一種形容詞と同様に變化する。即ち  
男 — us, 女 — a, 中 — um である。

	S.			P.		
	男	女	中	男	女	中
N.	longissimus	longissima	longissimum	longissimi	longissimae	longissima
G.	longissimi	longissimae	longissimi	longissimorum	longissimarum	longissimorum

最上級語尾變化一覽表

	S.			P.		
	男	女	中	男	女	中
N.	(—issimus)	(—issima)	(—issimum)	—i	—ae	—a
G.	—i	—ae	—i	—orum	—arum	—orum

○ 原級語幹が —er, —il に終るものは最上級を作るとき、—issimus の代りに —rimus 又は —limus を附加する。

例:— 原級                      比較級                      最上級  
celer (速い)                      celerior                      celerrimus  
similis (似たる)                      similior                      simillimus

C. 特殊の若干形容詞は不規則に變化する。

例:— 原級                      比較級                      最上級  
bonus (良い)                      melior (中性 melius)                      optimus  
malus (悪い)                      pejor (中性 pejus)                      pessimus  
magnus (大きい)                      major (中性 majus)                      maximus  
parvus (小さい)                      minor (中性 minus)                      minimus

D. 比較、最上級の概念を含む形容詞の原級は餘り用ゐられないか又は缺如してをる。

例:—                      比較級                      最上級  
以前の                      prior, prius (中)                      第一の primus  
こちら側の                      citerior, —ius (中)                      最寄りの citimus  
あちら側の                      ulterior, —ius (中)                      最端の ultimus  
近い                      proprior, —ius (中)                      最も近い proximus  
後方の(のちの)                      posterior, —ius (中)                      最後の postremus  
上の                      superior, —ius (中)                      最上の supremus  
下の                      inferior, —ius (中)                      最下の infimus

【形容詞の原級、比較級及び最上級應用例】

ala magna f. (大翼) ala parva f. (小翼)  
musculus teres major (minor) m. 大圓筋(小....)  
m. gluteus maximus (medius, minimus) m.  
大(中、小)臀筋  
arteria laryngea superior (inferior) f. 上(下)喉頭動脈  
nervus occipitalis major (minor) m. 大(小)後頭神經  
labium majus (minus) [複 labia majora (minora)] n.  
大(小)陰唇  
os maxillare superius (inferius) n. 上(下)顎骨  
vena facialis anterior (posterior) f. 前(後)顔面靜脈  
nervi supraclaviculares antetiores m. p. 前鎖骨上神經  
spina ilei anterior superior f. 腸骨の前上棘  
locus minoris resistentiae m. もつと少き抵抗の場所(病  
に抗する力減ぜる所)



VII.

數 詞

- 數詞は十二迄の原數と順序數とを知つてをれば用が足りる
- 原數を變化さす場合は殆んど出て來ない。唯 1 2 3 だけ名詞の性により形を異にする。
- A. 1 (unus) は bonus (良い) の如く即ち第一種形容詞の如く變化する。但し二格は各性共通。

	m. (男)	f. (女)	n. (中)
N.	unus	una	unum
G.	unius	unius	unius

- B. 2 (duo) 3 (tres) は n. (一格) を除く外は規則的で複數形のみ。但し 3 (tres) の中性一格は例外。

	m.	f.	n.	m. f.	n.
N.	duo	duae	duo	tres	tria
G.	duorum	duarum	duorum	trium	trium

- 順序數は m. (男性) ūs, f. (女性) ā, n. (中性) ūm の語尾をとり、その變化は第一種形容詞のそれと同じ。
- 例:— 男 女 中  
primus prima primum
- mille (千) は S. (單數) では形容詞として不變化、P. (複數) では名詞として變化する、随つて milia (第三變化の中性名詞複數) の次に來る名詞は複數二格 (P. G.) である。

例:— 千人の兵士 (兵士 (m.) 單 miles, —itis  
複 milites, —um)

N. mille milites G. mille militum

例:— 二千人の兵士 (名詞複數形の千は N. milia G. milium)

N. duo milia militum

G. duorum milium militum

數 詞 一 覽 表

	原 數	順 序 數
I	ūnus, unā, ūnūm	primus, —a, —um
2	duo, duae, duo	secundus
3	tres, tres, tria	tertius
4	quattuor	quartus
5	quinque	quintus
6	sex	sextus
7	septem	septimus
8	okto	octavus
9	novem	nonus
10	decem	decimus
11	undecim	undecimus
12	duodecim	duodecimus
13	tredecim	tertius decimus
100	centum	centesimus
1000	mille	millesimus
2000	duo milia	bis millesimus



VIII.

前置詞

- 1. 四格を支配するもの
- 2. 六格を支配するもの
- 3. 四格と六格とを支配するもの

1. 四格 (accusativus) 支配の前置詞

ad まで、方へ (zu)	infra 下部に (unterhalb)
per 因りて (durch)	supra 上部に (oberhalb)
post 後ちに (nach)	inter 間に (zwischen)
contra (versus) 對して (gegen)	circa (circum) まわりに (um...herum)
trans あちらに (jenseits)	ante 前に (vor)
ultra あちらに、越えて (jenseits, über)	pone 後ろに (hinter)
extra 外部に (außerhalb)	propter 爲めに、故に (wegen)
intra 内部に (innerhalb)	praeter 外に、反して (außer, wider)

例:—

restitutio ad integrum 無疵への復舊、全治	
ad maximum 極度に	ad infinitum 無限に
per os 口を経て	per anum 肛門を経て
post mortem 死後に	post operationem 手術後に
post partum 分娩後に	intra vitam 生前に
inter partum 分娩中に	ante meridiem 午前に
ante Christum natum 耶蘇紀元前	

2. 六格 (ablativus) 支配の前置詞

a (ab, abs) より (von) (a は子音で始まる語の前。ab は母音の前。abs は te (汝に) の前。)

de 就いて (über)                      sine 無しに (ohne)

cum 以て、共に (mit)                ex (e) より (aus)

prae 前に (vor)                        (e は子音で始まる語の前)

pro 向ひて (für, 賛成の意あり、pro und contra 賛成と反対)

例:—

vis a tergo	後方より推す力
ab ovo	卵から、始めより
a priori	前よりして、推測に基いて
a posteriori	後よりして、結果又は経験に基いて
de facto	實際
sine ira et studio	憎悪と偏愛なしに、虚心平氣に
cum grano salis	思料判断して
ex (又は e) cathedra	獨斷に、獨裁に
foetor ex ore	口中よりの惡臭
pro dosi	一回に(藥量)
pro die	一日に(藥量)
pro centum	(%) プロツェント
pro mille	(%) プロミルレ

3. 四格と六格支配の前置詞

in 中に (六格) 中へ (四格)	(in)
sub 下に (六) 下へ (四)	(unter)
super 上に、上へ (四) 就いて (六)	(über)



例:—

in toto	全く
in Baccho et Venere	酒と色とに於て
in praxi	實地に
in vitro	瓶に入れて
excessus in Venere	房事過度
in extenso	詳細に
sub forma	....の形にて
sub coitu	交接中に

IX.

接續詞及びその他

et 及び (und)

例:—pater et mater 父と母 et cetera=etc 及その他  
ergo 故に (also, deshalb) 副詞

例:—cogito, ergo sum 我思ふ故に我れ有り。

quoad に関しては (so weit, als) 副詞なれど用法前置詞  
の如し。

例:—prognosis quoad vitam 生命に関する豫後。

附 録

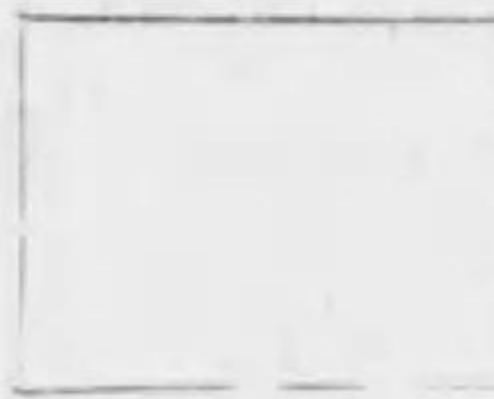
ラテン語演習

1. 肋骨頸櫛。肋骨 Costa の頸 Collum の櫛 Crista
2. 瞼裂。瞼 Palpebra (複數) の裂目 Rima
3. 長骨 (單複兩形)。長い longus 骨 Os, ossis (中性)
4. 上唇。上 superior 唇 Labium
5. 楔狀骨小管 (複數形)。楔狀骨の sphenoidalis 小管 Canaliculus
6. 大後頭孔。大 magnus 後頭の occipitalis 孔 Foramen
7. 上肢の部位 (複數形)。上 superior 肢 Extremitas の部位 Regio, regionis
8. 顔面神經管裂口。顔面神經管 Canalis facialis の裂口 Hiatus
9. 中顳類動脈溝。中顳類動脈 Arteria temporalis media の溝 Sulcus
10. 鼓室小管上口。鼓室 Tympanicus の小管 Canaliculus 上 superior 口 Apertura
11. 大翼眼窩櫛。大 magnus 翼 Ala の眼窩櫛 Crista orbitalis
12. Disci articulares 關節盤の單數形。
13. 筋動脈枝 Rr. musculares. 後横起間筋の讀方並に單數形。Mm. intertransversarii anteriores.  
動脈枝 Ramus 筋 Musculus 神經等はよく省略して頭文字のみ書き複數の時は頭文字の小文字を之に加へる。Nervus.
14. 食道動脈 Aa. oesophageae. 前外脊髄靜脈の讀方並に單數形 Vv. spinales externae anteriores.



15. 横小頭靱帯(複)。小頭 Capitulus (複)の横 transversus 靱帯 Ligamentum (複)
16. 分岐靱帯跟舟部。分岐 bifurcatus 靱帯 Ligamentum の跟舟部 Pars calcaneonavicularis
17. 楔状骨竇口。楔状骨の sphenoidalis 竇 Sinus の口 Apertura. Sinus は第四變化に屬す
18. 楔状骨竇間障。楔状骨の syhenoidalis 竇 Sinus (複)の間障 Septum
19. 上腓骨筋支持帯。腓骨の peroneus 筋 Musculus (複)の上 (superior) 支持帯 Retinaculum
20. 舌下神経吻合枝(複)。舌下の hypoglossus 神経 Nervus との cum 吻合 anastomoticus 枝 Ramus (複) cum は六格支配の前置詞。Nervus hypoglossus の六格 nervō hypoglossō.
21. 前薦腸靱帯(複)。前 anterior 薦腸の sacroiliacus 靱帯 Ligamentum (複)
22. 大後頭直筋櫛。大 major 後 posterior 頭 Caput, capitis の直 rectus 筋 Musculus の櫛 Crista
23. 長伸趾筋腱鞘。足 Pēs, pedis の指 Digitus (複)の長 longus 伸 extensor 筋 Musculus の腱 Tendo, tendinis (複)の鞘 Vagina.

昭和七年四月五日第一版印刷  
昭和七年四月十日第一版發行

版權所有  不許複製

「醫學生のラテン」

— 定價五拾錢 —

著者 磯部幸一  
發行者 佐藤義人  
東京市本郷區湯島六丁目廿八番地  
印刷者 吉原良三  
東京市牛込區早稻田鶴卷町一〇七

發行所

大學書林

東京市本郷區湯島六丁目廿八番地  
電話小石川(85)四五六七番  
振替東京四三七四〇番

東京・早稻田・康文社印刷所印行



九州醫專教授 磯部幸一著

# 獨逸醫文の書き方

定價 壹圓五拾錢 送料 六錢  
四六版總クロス 百七十頁

從來醫文、特に病歴文起草の好参考書あるを未だ聞かない。而してこれこそ獨逸語が漸く日常化しつつある醫學界にとつて最も必要なるものである。本書は長く九州醫專教授として學生の教導に盡された著者がいたくその必要を痛感され自ら立つてその蘊蓄を傾けられた良書である。篇を分つて三篇、第一篇に於て醫學獨文の概括的基礎的智識を授け、第二篇に於て多種多様な醫學獨文の表現文脈を組織的系統的に排列詳説し、第三篇は醫大に於て最も頻繁に行はれる文の收縮、短縮、省略等に宛てゝある。説明は簡潔を尊ぶと共に懇切を旨とし、問題を掲げて要點、用語、語法に亘つて讀者の理解の遺憾なきを期し、練習問題は各節の終りに豊富に挿入し、卷末附録「醫學獨文問題集」と共に普通行はれる醫學文章の殆んどすべてを網羅し、しかも各問題には用語を併せ掲げる等、著者の親切な心遣ひは到る所に現はれてゐる。本書の如きは醫學生にとつては最もよき獨作文の参考書であり、また一般に醫文、殊に病歴文起草の絶好の手引きである。敢て一讀をおすすめしたい。

## 語學四週間叢書

本書は凡て一ロ一課二時間文法譯讀練習で四週間で語學の一週りを會得される組織になつてゐます。發音には必ず萬國管譯文字を用ひ或は口形圖を採用してゐます。四週閱讀後の學習指針も與へられて居り、紙上で不明な點は質問券により著者自らが責任應答することになつてゐます。世上幾多の参考書中最も責任ある最も低廉な出版物であり、従つて最も多くの讀者を持つてゐる叢書であります。

森 偽 郎 著	獨 逸 語 四 週 間	四六判布裝 400 頁	1.50 .08
徳尾俊彦著	佛 蘭 西 語 四 週 間	四六判布裝 350 頁	1.50 .08
松 本 環 著	英 語 四 週 間	四六判布裝 450 頁	1.50 .10
徳尾俊彦著	伊 太 利 語 四 週 間	四六判布裝 350 頁	2.00 .08
岡澤秀虎著	露 西 亞 語 四 週 間	四六判布裝 320 頁	1.50 .08
宮島吉敏著	支 那 語 四 週 間	四六判布裝 260 頁	1.50 .08
小野田幸雄著	エスペラント四週間	四六判布裝 300 頁	1.50 .08
山口鐵次郎著	葡 萄 牙 語 四 週 間	近 刊	
笠井鎮夫著	西 班 牙 語 四 週 間	近 刊	
松 本 環 著	英 文 解 釋 四 週 間	四六判布裝 450 頁	1.50 .06



◇ 大學書林獨逸語參考書 ◇

森 僑 郎 著	獨 逸 語 四 週 間	四六判布裝 400 頁	1.50 .03
藤 原 肇 著	獨逸語發音五時間	四六判上製 50 頁	.30 .02
岡 田 俊 一 著	暗 記 用 獨 逸 文 法	四六判上製 100 頁	.70 .04
岩 本 經 丸 著	初 步 獨 逸 文 法 要 訣	四六判布裝 360 頁	2.00 .08
內 田 貢 編	獨 逸 常 用 熟 語 一 千 句	四六判布裝 180 頁	1.00 .06
內 田 貢 編	獨 逸 語 名 詞 の 性	四六判上製 52 頁	.30 .02
高 坂 義 之 共 著 W.ロート	高 等 獨 作 文	四六判布裝 250 頁	1.20 .08
森 僑 郎 譯	ヘルマン・ヘツセ 大 旋 風	四六判上製 34 頁	0.50 .02



特 252

694



終